学校法人　高田学苑
高田短期大学育児文化研究センターだより

IKUBUN NEWS

第３号　2006.2.15
発行　高田短期大学育児文化研究センター
〒514-0115　三重県津市一身田豊野 195
ＴＥＬ059(232)2310(代表)　FAX059(232)6317

『センター開設１年を経過して』

例年になく低温の日が続く今冬ですが、皆様方にはご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、高田短期大学育児文化研究センターが平成 16 年 10 月に開設して、早いものでもう 1 年 4 ヶ月が経過いたしました。この間、関係者の皆様には、センターの発展のためにいろいろとご尽力を賜りましたことをスタッフ一同心より感謝いたします。おかげさまで、親子支援活動、保育者や教育者のための講座、大学の施設地域開放行事、出前講座などさまざまな分野での事業を実施することができました。私達は県内の多くの方々に「育児文化研究センター」を利用していただき、ともに子どもの幸せと未来を考えられる機関でありたいと願っています。少子化傾向はますます進行し、一方で子どもの生命を脅かすような凶悪事件が相次ぐ中、「子どもの生命を産み、育み、守ること」は、地域をあげて支援していかねばならない緊急の課題です。このためにセンターが微力ながらお役に立つことができますよう、今後も努力を重ねていく所存ですので、どうかお力添えの程よろしくお願い申し上げます。　　育児文化研究センター長　豊田和子

出前講座に多くの研究員が活躍

好評な事業の一つである出前講座は、本年度 49 回の講師派遣を行ってきました。依頼があった場合、要請内容と研究員の専門領域を検討し、日程調整をして派遣者を決めます。対象は幼稚園・保育所の先生、保護者、親子、子育てサポーターなど様々です。内容は音楽リズム・造形表現・ベビーマッサージ・触れ合い遊びなど実践的なものから、子育て・しつけ・子どもの発達・仏教保育等の講演、あるいは保育実践研修会での助言等多岐にわたります。日々保育・教育・子育てに取り組んでおられる先生方・保護者の皆様そしてお子さん方と共にこれらの活動に取り組ませていただくことは私たちの学びにもつながります。出前講座をご活用いただき、保育・子育ての知恵と技術を互いに深め合いたいと願っています。

育児文化研究センター主任研究員　田口　鉄久

CONTENT

・ことば　…1頁
・平成十七年度重点取組み
子どもの「生きる力」をはぐくむ
プロジェクト事業の報告　…2頁
○・一・二歳児のための
「子どもひろば」
「生きる力」をはぐくむ食育事業
馬とふれあう親子支援事業
「馬とふれあう親子フェスタ」
子どもの「生きる力」を支援する
保育者のためのセミナー
子どもの「生きる力」を支援する
学童保育指導員のためのセミナー
親子で楽しく学ぶホームページづくり
とメディアリテラシー
・ひさいっこフェスタｉｎ2005…4頁
・定例研究会報告　…5頁
・研究員の活動紹介　…6頁
・問い合わせ・アクセス

平成 17 年 11 月 23 日
「馬とふれあう」親子フェスタ

子どもの「生きる力」をはぐくむプロジェクト事業の報告

育児文化研究センターでは、平成17年重点取り組みとして、子どもの「生きる力」をはぐくむプロジェクト事業を企画しました。これは、乳幼児から思春期にいたるまでの子どもの「生きる力」の弱体化が指摘され、この傾向は三重県においても同様であることから、子育て支援事業の中でも、特に子どもの「生きる力」の回復と保障を促進するような支援の強化およびネットワークづくりが緊急の課題であると認識したところから出発しています。私達は、子どもの「生きる力」を「遊ぶ力」「食べる力」「自然とかかわる力」「仲間づくりの力」「メディアを読み解く力」の5分野と捉えて親子支援活動と子育て支援者のための支援活動を行うことによって、地域の教育力活性化をめざすことを目的として以下の事業を実施しました。

（詳細はホームページ　高田短期大学＞施設紹介＞育児文化研究センター＞活動内容
http://www.takada-jc.ac.jp/cgi-bin/cms/ikuji/list.cgi）をご覧ください。）

（1）0・1・2歳児のための「子どもひろば」＜平成17年7月～12月に実施＞

「安心して、楽しく子育て」をキーワードに、子育て中の親を対象に、0歳児と1・2歳児に分けて、ベビーマッサージ、親子で運動遊び、リズム遊び、製作活動など、親と子のふれ合いを通してより一層親子の絆を深めてもらうような講座です。「遊びにおいでよ！0歳児さん」は、7月30日、10月1日、12月10日、「遊びにおいでよ！1歳児さん」は、7月2日、9月3日、11月8日の各3回、土曜日の午前中に高田短期大学育児文化室で開催しました。講師は、0 歳児クラスが梶美保研究員・今吉久美客員研究員、1･2 歳児クラスが榊原尉津子研究員、福西朋子研究員、梶美保研究員、わけびき真澄研究員でした。参加者は、毎回多くの応募があり、6回の講座で合計116組（大人104人、子ども130人）の参加があり好評でした。ボランティアで参加した保育学生も大活躍でした。

製作活動（上）と
ベビーマッサージ(下)

学生ボランティアも大活躍

(2)「生きる力」をはぐくむ食育事業
＜平成17年6月10日（その1)、10月8日･22日（その2）に実施＞

食育クッキング（その１）

平成17年6月10日（金）10時より幼児期から食の大切さを学んでもらおうと、保育園児を対象にした調理教室を駒田聡子客員研究員の指導で開催しました。津市一身田の高田保育園児年長クラス21人は子ども用包丁を使って、学生らに手伝ってもらいながら、小麦をこねて生地を作ったり、ウインナーを丁寧に切ったりしました。生地に具やチーズを載せてオーブンで焼き、温かなピザが完成しました。園児たちはおしゃべりを楽しみながら、ゆっくりと味わいお腹一杯食べました。

親子で「玄米菜食」料理に挑戦！（その２）

平成17年10月8日（土）と10月22日（土）の2回、10時より高田短期大学調理実習室で子育て中の親子30組（1回目16組、2回目14組）が「玄米菜食」料理を体験しました。メニューは、1回目、玄米のご飯とみそ汁づくり、2 回目はおやきと玄米かゆパンでした。講師は穀物や菜食料理の教室を開いている桑名市の開業助産師今吉久美客員研究員です。「食育って」「穀物菜食」「身土不二（しんどふじ)」「一物全体（いちもつぜんたい)」「穀物って」などの話しに参加者は熱心に聞き入っていました。

親子で一緒に料理

(3) 馬とふれあう親子支援事業　「馬とふれあう親子フェスタ」（大学行事）

平成17年11月23日(水・祝日)、高田短期大学キャンパスと馬場を開放して、県内の未就学児と保護者を対象にしたフェスタを開催しました。近頃の子ども達は、生きた動物や自然に触れる機会が少なくなっているので、馬や小動物とのふれあい活動や、馬にちなんだ楽しい遊びを体験してもらうことによって、自然や動物へのいたわりの気持ちを育み、同時に家族の絆を深めてもらおうというねらいです。馬術演技や馬車でのお散歩、山羊やモルモットなどの動物との触れ合いなど、秋の一日を楽しく過ごしてもらいました。お土産には手作りパン。高田高校馬術部員と本学学生ボランティア約40名が加わり、参加者は津市の他に桑名市・鈴鹿市・安芸郡から約 200名で盛り上がりました。

えさをあげようね

高田高校馬術部の演技

ロディに乗ってパカパカ

(4) 子どもの「生きる力」を支援する保育者のためのセミナー
＜平成17年7月31日・平成18年1月28日＞

1回目は、平成17年7月31日（日)、高田短期大学育児文化室にて「観て・感じて・やってみよう！－楽しい人形劇の演じ方－」講座を実施しました。保育所、幼稚園、学童保育で子どもたちの保育・教育にあたる方々や学生さん30名あまりの参加がありました。講師は「ねこのてにんぎょうげきじょう」の“しんすけさん”でした。「とりかえっこ」「なかよし」「どっこいしょ」などの人形劇を鑑賞すると共に、演じ方のコツを実演指導してもらいました。人形の視線を考えること、人形の動きを止めることの大切さなど、具体的に教えてもらいました。今後子どもたちに演じる時のヒントを得ることができました。その後、2つのグループに分かれて、ミニ講座を受けました。「障害のある子の保育」については本学千草篤麿研究員に、「環境構成のポイント」については本学池上綾子客員研究員に、それぞれ実践を踏まえた講話をしてもらいました。

しんすけ講師

自分のお人形を持参して

2回目は、平成18年1月28日（土)、同じく高田短期大学育児文化室にて「うたって・おどって遊ぼう！」の講座を実施しました。実技講座は「たんこぶポコタンズ」(浦中浩一客員研究員他3人、全員が保育士）の熱演もあって楽しい雰囲気でリズム遊び、手遊び、歌遊びなどをすることができました。新しいセンスのリズム・歌で、現代の子どもにぴったりの内容でした。その後、ミニ講座として約50分、2グループに別れ、川村きみ子客員研究員、岩附啓子客員研究員の「感性と表現を育むには」「子どもの心とひびきあう保育を創造するために」の分科会が行われました。

たんこぶポコタンズ

みんなで楽しくつながり遊び

(5) 子どもの「生きる力」を支援する学童保育指導員のためのセミナー＜平成 17 年 7 月 9 日＞

平成 17 年 7 月 9 日（土）午後 2 時より、松阪ワークセンターにて子どもの「生きる力」を支援する学童保育指導員のためのセミナーが開催されました。前半は、豊田ひさき客員研究員による講演「遊びをとおした『かかわりづくり』」は子どもの育ちに必要なことを事例を交えた楽しく納得させられるような内容で、会場でも頷きながら熱心にメモを取る様子が見られました。後半は、わけびき真澄研究員による製作セミナー「自然を使った手作りおもちゃ」で、竹を使用し、フリクションドラムにチャレンジしました。ボランティア学生 8 名も託児にセミナーの手伝いに大活躍でした。

豊田ひさき客員研究員

(6) 親子で楽しく学ぶホームページづくりとメディアリテラシー

メディアの取り扱いと情報発信のあり方について－家族のホームページ制作－（その 1）

自分のホームページができた！

平成 17 年 8 月 23 日（火）～26 日の午前 10 時から鷲尾敦研究員の指導により高田短期大学ＰＣルームで開催しました。親子 4 組 11 人が参加し、4 日間でそれぞれのホームページ制作に取り組みました。技術的なことばかりでなく、ネットとつきあうために必要なことを学びながら親子で挑戦してもらいました。完成したホームページは鷲尾研究室通信 http://washio.takada-jc.ac.jp/から見ることができます（公開許可を頂いた作品のみ）。

やさしいＷｏｒｄ講座－文書作成と年賀状

平成 17 年 12 月 17 日（土）午後 1 時 30 分より 10 名の参加者のもと開催しました。鷲尾研究員がコーディネータを務め、川喜田講師が指導にあたりました。ボランティアとしてオフィス情報学科インストラクター演習を受講している学生 20 人がマンツーマンで参加者に付き講座の講師役を果たしました。パソコンのマウス・キーボードの解説から、プログラムの操作、文字の作成・変換を説明し、文書作成の仕方、年賀状の作成方法などの実技指導を行いました。

基礎からしっかりと学びました

＜平成 17 年度三重県ささえあい事業助成事業＞

ひさいっこフェスタ 2005―子育て応援隊による「バルーン夢ひろば」であそぼう！―

平成 17 年 11 月 27 日(日)、久居市地域子育てセンターと協同して、久居市総合福祉会館にて親子を対象に子育てイベントを行いました。バルーン夢広場においては巨大バルーンのトンネル・きりん・アーチ・バルーンドールなど夢のような空間で子どもたちが目を輝かせていました。絵本コーナー、折り紙コーナー、育児相談コーナー、ボールプール・ロディコーナー、マジックバルーンに挑戦コーナーがあり、午前午後 2 回のミニシアターでは、手遊び・マジックショー・歌遊び・パネルシアターが上演されました。参加者は約 400 名でした。ボランティア学生も積極的に親子とかかわり、バルーンは「児遊クラブ」の部員が活躍してくれました。

キャラクター折り紙も大人気

約 1000 個のバルーンの夢空間

定例研究会報告（第 4 回～9 回分）

定例研究会は、ほぼ毎月一回、多分野からの報告があり、内容の濃い研究会となり、定着してきています。

第 4 回

平成 17 年 6 月 14 日に、センター客員研究員糸川京子先生（大里保育園副園長）の報告による事例検討会がおこなわれました。先生ご自身の児童厚生員としての経験、保育の中での親支援の事例報告がなされ、子育て困難や幼児虐待が問題になっている今、幼いときから子どもの健全な発達を支える環境の必要性や家族支援のあり方などについて具体的な姿に学び合い、考え合う研究会でした。

第 5 回

平成 17 年 7 月 12 日に、センター客員研究員北端一子先生（河芸町上野保育所所長）から「子育て支援について」、保育園における取り組みのレポートをしていただきました。子育てに不安を感じている保護者、子どもの育ちに関する具体的な手だてのわからない保護者に対して、保育園が親しみを持って丁寧なかかわり、柔軟なかかわりをすることで、共に子どもの育ちを支える関係が生まれてくることを話されました。

第 6 回

平成 17 年 9 月 13 日に、センター客員研究員岩附啓子先生から「昔話にみる残虐性」についてレポートをしていただきました。昔話は「民俗学的」「文学的」「心理学的」な立場で研究されていることが紹介されました。また、残虐性の意味、昔話の特徴についての報告もありました。種類の異なる「三匹のこぶた」の絵本を見て“ 残虐性と子ども ”“ 保育における残虐性のとらえ方 ”について意見交換をしました。

第 7 回

平成 17 年 10 月 12 日に前回に引き続き、岩附啓子客員研究員から「絵本と子ども」のテーマでレポートをしていただきました。絵本の世界へ入っていく時の子どもの気持ち、クラスの皆が絵本の世界を共有することの意義などが紹介されました。その後岩附啓子先生・河崎道夫先生共著の『エルマーになった子どもたち』の実践につながった「エルマーのぼうけん」の読み聞かせ、探検隊の結成、探検、その後の劇遊びへの取り組み、絵本作りなどの様子が語られました。

第 8 回

平成 17 年 11 月 8 日（火）に、内藤由佳子研究員から「絵本を通じた対話的関係」のテーマでレポートをしていただきました。前回レポートされた岩附客員研究員の「エルマーとりゅう」の実践を 19 世紀末～20 世紀初頭のドイツ新教育運動の一つであるオットーの「対話的関係」を重視した教育の視座から分析・構造化を試みたものでありました。幼児教育・保育の目標を明確化させるための示唆が含まれる提起であり、幼児教育・保育と小学校教育との連携を考える際の視点にもなり協議が深まりました。

第 9 回

平成 18 年 1 月 10 日（火）に山本敦子研究員から「子どもの『学び』と音楽教育」のテーマでレポートしていただきました。子どもの躍動する心を基調にした音楽教育であるべきところを、教師が完成した音楽から発想する指導方法を取ることによって却って内容が貧弱になる危険性を指摘しました。参加者からは感動する心が何より大切なこと、鑑賞することの有用性、指導者としての技術・技能の必要性などが語られました。

研究員の活動紹介

鷲尾　敦　研究員

本学の公開講座ＯＢの方を中心とした「情報ボランティアみえ」とゼミナール学生とで「子どもパソコン教室」を平成 14 年度から公民館施設を使って実施しています。今年度は、当センターの後援を頂き、本学でも開催しました。「来て見て楽しい」をモットーに、子どもがパソコンを道具として活用できると実感できる題材で教室を進めています。今年度はプロフィールカード・カレンダー・動く絵本・年賀状作りをしました作品を作りあげた時の子どもたちの素直な笑顔に、私たちも一緒になって喜びを感じています。

「子どもパソコン教室」のホームページで、教室の様子や子どもたちの作品をご覧になれます。
http://washio.takada-jc.ac.jp/users/kodomo/

池上　綾子　客員研究員

永年、幼稚園教育の現場に身を置いてきたことから、「新規採用教員研修」の指導という場をいただき、本年度は５人を受け持ち年間を通して各園 10 回ずつ訪ねています。子どもが育つ環境として、ますます問題の多いこの社会の現状をふまえ、子どもにとって今求められている保育をその日の保育実践をもとに「心豊かにたくましく生きる力」を育てるために、日常保育の方策を具体的に共に考え、私なりの考えを一生懸命伝えています。きれい事ではすまされない現実に、改めて考えさせられることも多く、いろいろな形での新たな刺激をもらっています。お陰様で今のところ健康に恵まれ、子ども達の笑顔に出会えることを、この上なく幸せに感じているところです。

植木　存　研究員

本年度の地域での活動としては、知的障害児者の家族の方や障害者の就労支援に携わる人たち、また、“子育ち・子育てを地域で考える集い”などの地域でお話させて頂く講演の機会がありました。

また、子育てを考える母親たちのサークルで気軽にお互いの不安とか悩みについて話し合う場に参加させて頂きました。私たちの社会は、子どもが育つこと、子どもを育てることが、大変な時代を迎えています。今こそ、子どもたちと私たちが共に生きていく社会を見つめながら、人生を切り開いていく知恵を編みだしていく協同の努力が求められています。

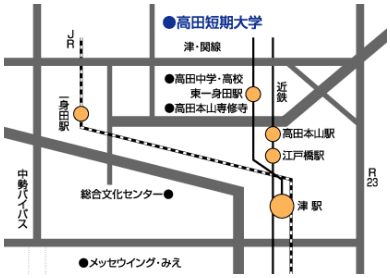
鈴木　照美　客員研究員

自宅で助産院マタニティハウスひまわりを経営しています。17 年度は、オーストラリアのブリスベンで開催された ICM(国際助産連盟)大会に宮崎氏，山名氏他（三重大学医学部看護学科）と共同で発表しました。内容は、日本の助産の伝統と心を若い助産師が引き継いでいるという実践をポスターセッションの形で諸外国の助産師に訴えました。
マタニティハウスひまわりの URL です。赤ちゃんがいっぱいです。http://www.mecha.ne.jp/~himahome/

ICMポスターセッションの写真の一部です

センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター
住　所　〒514-0115
三重県津市一身田豊野 195
Tel　(059)232-2310
Fax　(059)232-6317
高田短期大学　内線 123 番
Mail　ikubun@takada-jc.ac.jp



〈編集後記〉

センターが発足して一年余、盛りだくさんの本年の事業に追われてあっという間でした。おかげさまでどの事業も反響があり、地域の方々へ育児文化研究センターの存在が少しずつみえてきました。
（Ｍ・Ｋ）